

会派視察等報告書(個人用)

平成30年11月13日

知立市議会議長 様

報 告 者	神谷 定雄
日 時	平成30年11月7日～8日
視 察 (研 修) 場 所	長崎県大村市、長崎市
目 的	長崎県大村市、長崎市の行政視察

子ども未来館「おむらんど」子育て支援事業について

(1) 事業に至った経緯について

親同士の交流を通して、子育てのストレス軽減や育児不安の解消を図り、子育てに関する地域との連携の充実や地域の中で子どもを見守り・育てるなど、地域の子育て支援力向上を目的とし、これまでの子どもセンターを子ども未来館と地域子育て支援センターとの役割を明確にして、市内の子育て支援能力を効率的に再編整備するため、平成26年11月8日に大村市市民交流プラザの中に開設しました。

(2) 事業の概要について

① 部屋の配置

* 市民交流プラザ3階の一部を親子の交流室として、飲食も可能としています。また、子育てに関する相談コーナーや事務所を配置しています。

* 4階は、0歳児から小学生とその保護者が利用できる施設とし、各コーナー毎に年齢に合った遊具を配置し、親子で遊べるスペースとしています。

* 同時間世帯に利用できる人数を110人程度としています。

施設の運営方法など

市の運営方式とし、こども政策課で業務をおこなっています。地域子育て支援拠点事業(親子交流の場の開設、子育ての集い、講座等の開催、子育て相談対応、子育て支援情報の提供)の運営費は、平成30年度予算約16,221千円で正規職員1名および非常勤職員9名の計10名で交代制運営しています。

事業内容

- ① 子育て親子の交流場所提供と交流の促進
- ② 子育て等に関する相談・援助の実施
- ③ 地域の子育て関連情報の提供
- ④ 子育て及び子育て支援に関する講習会等の実施
- ⑤ 子育て支援サポーターの養成・活動支援、子育てサークルの結成・活動支援
- ⑥ 地域支援活動

今後の課題について

市民交流プラザに入場できない方（産後等）が行きやすいような仕組みづくりをすること。

小学生を入場許可するにあたり、試行錯誤をした結果、小学生の入場を許可にしたのは、その子（小学生）だけ置いていけない事情があるとのこと。

衛生面の管理について特に重点を置き9時から一時間清掃する。

所感

0歳～就学前のお子様とその保護者が一緒に過ごす場であるおむらんどは、非常に活気があり、共に遊びながら子育ての輪をつないでいた。四階のフロアでは、子供たちがのびのびと遊び、親同士の交流も行われていた。授乳室も完備されており、広いテラス、そして清潔感のある通路は勿論のこと安全対策も至る所に見受けられた。4交代制で1回につき最大120名入場する事ができ、不公平対策に整理券配布、利用時にカードを提示してカードを読み取ることにより、利用の状況を把握し各種データを作成し、運用の参考としていた。今後本市でも、この活気あるシステムを参考にし、取り入れる事で市民サービスの向上を目指して行きたいと思った。

2日目 長崎市視察

地域コミュニティの仕組み作りプロジェクトについて

(1) プロジェクトの概要について

地域コミュニティにはいろいろな活動があります。連合自治会 PTA 消防団 NPO 病院学校など地域の各種団体が連携してつながる活動を行っています。

地域コミュニティ連絡協議会

会長をはじめ事務局運営委員会をへて子ども部会まちづくり部会組織しています。

(2) 我が町未来マネージメント講座について

地域活動の担い手等を対象として、地域活動における運営能力の向上や地域活性化に効果的な手法の習得をめざす。

(3) 地域コミュニティ連絡協議会設立準備交付金について

1、交付対象経費の基本的な考え方

地域コミュニティ連絡協議会設立準備委員会に対して、まちづくり計画の策定等にかかる会議費について支援を行う。

2、交付対象費用の主な例

費用区分	主な内容
謝礼金	講師等に対する謝礼金等
消耗品費	事務用品等
食糧費	会議等の茶代等
印刷製本費	資料の印刷代等
通信運搬費	切手、はがき等
保険料	まち歩きに係るイベント保険料等
使用料及び賃借料	会場使用料等
その他	その他、特に市長が必要と認める費用

(4) 進捗状況と今度の課題について

近年、人口減少、少子化・高齢化、生活スタイルや価値観の変化など、社会の状況が大きく変わってきており、それに伴い、地域の困りごと申し訳ございません多様化・複雑化してき

ています。地域では、目的に応じて様々な団体がまちを良くするための活動を行っていますが、地域活動の担い手不足や高齢化などが進んでおり、今後、さらに多様化・複雑化していく地域課題への対応が難しくなることが考えられます。

所感

地域コミュニティとは、ご近所さんやそこで働いている方、ボランティア活動やいろいろな活動をしている方などをメンバーとした、集まりやつながりのことです。この地域コミュニティの力の大切さを最も感じやすいのは災害の時です。

この事を加味した時に長崎市の地域コミュニティの発信力は本市の状況と比べても一歩先に進んでいる様に感じました。

現在、問題なく活動できている地域でも20年、30年後には活動が維持できなくなっているかもしれません。未来を見据え、今のうちに地域のつながりを強め、地域一丸となって対応できるようにしておく必要があります。